

平成 15 年 9 月 25 日
気象庁地震火山部

配信資料に関する技術情報（地震火山部編）第 147 号

- ① 活火山の追加等に伴う火山情報電文の変更について
- ② 火山情報への火山活動度レベルの導入について
- ③ 震源速報に「海面変動あり」の情報を付加することについて
- ④ 電文通数を示すコード部の機能拡張について
- ⑤ 地震情報に用いる震度の地域名称の変更について
- ⑥ 東海地震に関する新しい情報発表について

①活火山の追加等に伴う火山情報電文の変更について

1. 概要

火山噴火予知連絡会は、平成 15 年 1 月 21 日、活火山の定義を「概ね過去 1 万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動が認められる火山」に変更し、その定義に基づく新たな活火山の選定を行いました。気象庁はこの結果を受けて、同年 4 月 1 日より、従来の 86 火山を 108 火山に改めて火山業務を行っています。

これについて、添付資料のとおり、火山情報電文中の火山名コードを 108 火山に対応させ、12 月 1 日より運用を開始する予定です。

2. 添付の関係技術資料

- 資料 1 火山情報を 108 活火山に対応させるに当たっての火山名コード変更点
- 資料 2 108 火山対応に変更後の火山名コード一覧
- 資料 3 火山情報電文のフォーマット

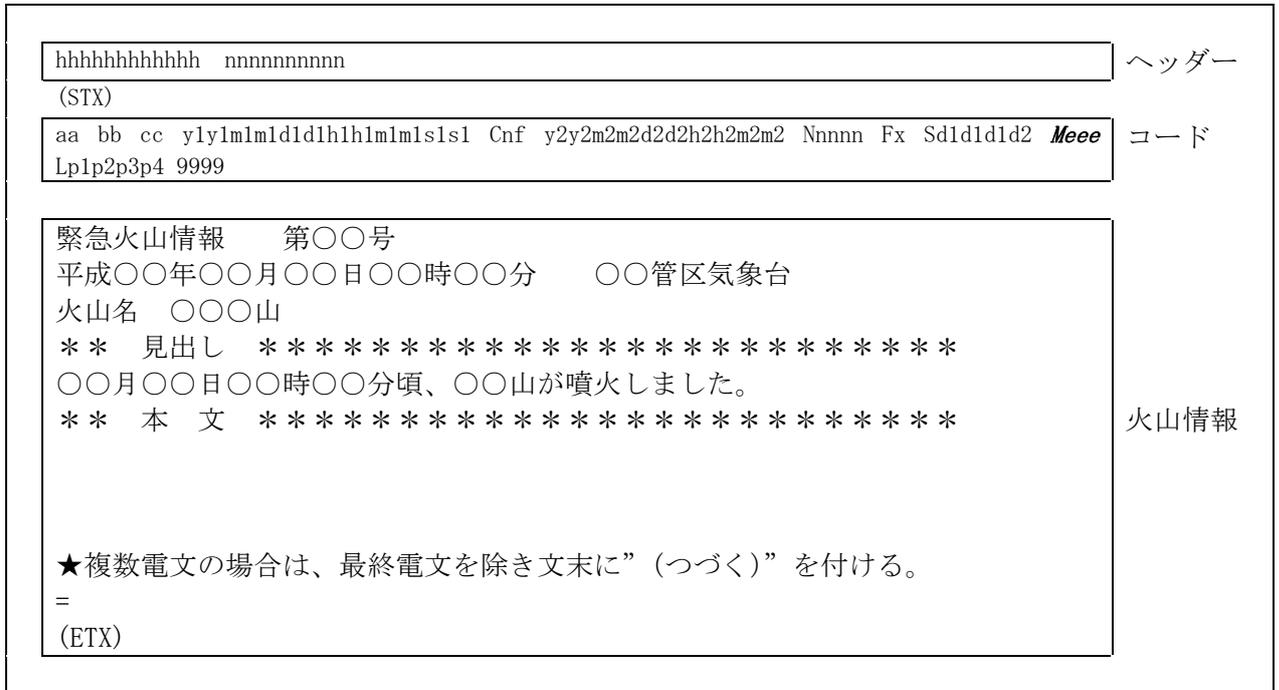
資料 1 火山情報を 108 活火山に対応させるに当たっての火山名コード変更点

新たに追加する火山		削除する火山	
火山名	コード	火山名	コード
利尻山	116	南硫黄島南東沖海底火山	332
羊蹄山	117	鶴見岳	501
ニセコ	118		
ルルイ岳	161		
肘折	217		
沼沢	218		
高原山	333		
横岳	334		
アカンダナ山	335		
利島	336		
御蔵島	337		
孀婦岩	338		
海形海山	339		
南日吉海山	340		
日光海山	341		
三瓶山	401		
阿武火山群	512		
鶴見岳・伽藍岳	513		
由布岳	514		
福江火山群	515		
米丸・住吉池	516		
若尊	517		
池田・山川	518		
口之島	519		

資料3 火山情報電文のフォーマット

火山情報電文を108火山に対応させるにあたり、コード部のMeee部((2)の13)のeeeに入るコードが、資料1及び2のとおり変更になります。

(1) 電文形式と構成



(2) ヘッダー・コード部詳細

- 1) hhhhhhhhhhhh : 電文ヘッダ (半角カナ) =カザンゾ ヲホク 1
- 2) nnnnnnnnnn : 発信官署名 (半角カナ)
- 3) (STX) : 本文開始符号(Start of Text)
- 4) aa : 火山情報種別番号
 40=緊急火山情報, 41=臨時火山情報, 42=火山観測情報,
 43=定期火山情報, 44=統一見解等
- 5) bb : 電文発信官署コード
 01=札幌, 02=仙台, 03=本庁, 04=大阪, 05=福岡, 06=沖縄
 07=鹿児島, 09=中枢以外の気象官署 (地台など)
- 6) cc : 電文種別
 00=通常, 01=訓練, 10=通常を取り消し,
 11=訓練を取り消し, 20=通常形式の電文による配信試験,
 30=基本コード部のみの形式による配信試験
- 7) ylylm1m1d1d1h1h1m1m1s1s1: 電文発信時刻
- 8) Cnf : 電文通数

- C : 電文通数を示す識別符号
- n : この情報で電文がこれを含めあと何通あるかを示す。
- f : この電文でコード部が終わりかあるいはさらに続くかを示す。
1=終わり, 0=続く
2 通目の電文以降の電文のコード部は
(aa bb nn ylylmlmldldldlhlhlmmls1s1 Cnf 9999)とする。
- 9) y2y2m2m2d2d2h2h2m2m2 : 情報発表時刻
- 10) Nnnnn : 情報番号
N : 情報番号を示す識別符号
nnnn : 情報番号 通番: n=1~9999; ////=省略
- 11) Fx : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等
F : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等を表す識別符号
x : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等を表す。 / =設定なし, 1=噴火前, 2=噴火後
3=現地確認・現地報告を受けての発表, 9=不明
- 12) Sd1d1d1d2 : 情報発表官署
S : 情報発表官署を示す識別符号
d1d1d1 : 情報発表官署コード
412=札幌管区气象台, 590=仙台管区气象台,
662=気象庁地震火山部, 772=大阪管区气象台,
807=福岡管区气象台, 827=鹿児島地方气象台,
936=沖縄气象台
d2 : 連名による情報発表の有無
0=連名なし(通常), 1=連名発表(主たる発表官署は d1d1d1)
- 13) **Meee** : **火山名**
M : **火山名を示す識別符号**
eee : **火山名コード**
- 14) Lp1p2p3p4 : 火山活動度レベル
L : 火山活動度レベルを示す識別記号
p1 : 火山活動度レベル: p1=0~5
火山活動度レベルの運用開始前の火山では p1=/
p2p3p4 : 未使用 p2p3p4=///
- 15) 9999 : コード行終了符号
- 16) = : 本文終了記号
- 17) (ETX) : 本文終了符号(End of Text)

②火山情報への火山活動度レベルの導入について

1. 概要

気象庁では、異常な火山現象が認められた場合には、活動の状況に応じて「緊急火山情報」、「臨時火山情報」、「火山観測情報」を防災機関等へ速やかに提供するとともに、詳細な解説や助言等を行ってきています。

これについて、平成15年11月4日に、火山活動の程度を客観的数値指標として表す「火山活動度レベル」を新たに火山情報本文中に導入し、火山情報をより分かりやすくすることを計画しています。また、コード部への反映は12月を予定しています。

火山活動度レベルは、レベル0～5の6段階で、各区分は火山活動の活発さを表す標準的モデル（添付資料1）を参考として、個々の火山の活動の特徴に応じて火山学的な観点から噴火規模・様式や可能性を総合的に判断して決定されます。

防災関係機関等におかれましては、この火山活動度レベルの意味を十分理解され、火山活動状況の周知等の防災対応に利活用いただけると幸いです。

なお、火山活動度レベルは、当面、浅間山、伊豆大島、阿蘇山、雲仙岳、桜島の5火山を対象に導入しますが、逐次、他の火山にも導入していく予定です。

2. 具体的な火山活動度レベルの公表の方法

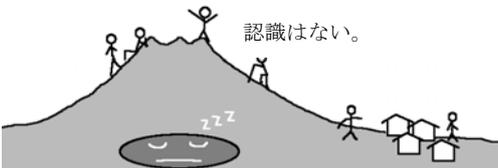
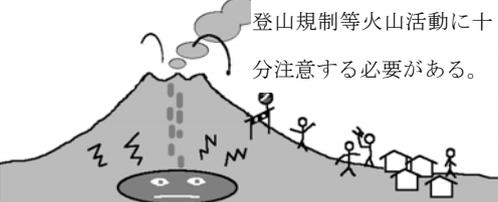
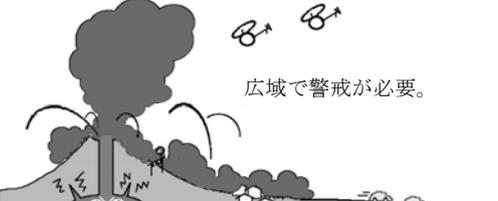
火山情報電文中のコード部及び本文中に記述します。コード部の仕様については、添付資料2を参照してください。本文中の記述方法については現在検討中です。

3. 添付の関係技術資料

資料1 火山活動度レベルの標準的モデル

資料2 火山情報電文のフォーマット

資料1 火山活動度レベルの標準的モデル

<p>レベル0（長期間火山の活動の兆候なし）</p> <p>長期に渡り、噴気活動もなく、火山性地震等の発生もほとんどみられない。</p>	 <p>多くの人は活火山という認識はない。</p>
<p>レベル1（静穏な火山活動）</p> <p>噴気活動が見られたり、火山性地震や微動が時折発生するものの、噴火の兆候はない。</p>	 <p>噴火の兆候なし。</p>
<p>レベル2（火山活動に高まり）</p> <p>噴煙活動、火山性地震や微動の多発等、地下の火山活動がやや活発化している。噴火活動期への移行段階の可能性はある。火山観測情報で火山活動の状況を適宜周知する。</p>	 <p>火山活動の状態を見守っていく必要がある。</p>
<p>レベル3（小～中規模噴火）</p> <p>火口周辺に影響がある噴火が発生、あるいは、噴火の可能性を示す地震活動等の異常現象が見られる。噴火しているあるいは可能性がある火口近傍では注意が必要。臨時火山情報を発表して注意を喚起する。</p>	 <p>登山規制等火山活動に十分注意する必要がある。</p>
<p>レベル4（中～大規模噴火）</p> <p>中～大規模噴火が発生し、火口から離れた地域でも影響がある。あるいは、そのような噴火の可能性を示す地震活動等の異常現象が見られる。噴火しているあるいは可能性がある火口近傍だけでなく周辺でも警戒が必要。緊急火山情報を発表して警戒を呼びかける。</p>	 <p>居住地にも影響の可能性</p>
<p>レベル5（極めて大規模な噴火）</p> <p>極めて大規模な噴火が発生、あるいは発生する可能性があり、広域で厳重な警戒が必要。緊急火山情報を発表して警戒を呼びかける。</p>	 <p>広域で警戒が必要。</p>

資料2 火山情報電文のフォーマット

火山活動度レベルを公表するにあたり、コード部の Lp1p2p3p4 部分に、該当するレベルの数値（0～5）を示します（詳細は(2)の14)参照）。

(1) 電文形式と構成

hhhhhhhhhhhh nnnnnnnnnn (STX)	ヘッダー
aa bb cc ylylm1md1d1h1h1m1m1s1s1 Cnf y2y2m2m2d2d2h2h2m2m2 Nnnnn Fx Sd1d1d1d2 Meee Lp1p2p3p4 9999	コード
緊急火山情報 第〇〇号 平成〇〇年〇〇月〇〇日〇〇時〇〇分 〇〇管区气象台 火山名 〇〇〇山 ** 見出し **** 〇〇月〇〇日〇〇時〇〇分頃、〇〇山が噴火しました。 ** 本文 **** ★複数電文の場合は、最終電文を除き文末に” (つづく)” を付ける。 = (ETX)	火山情報

(2) ヘッダー・コード部詳細

- 1) hhhhhhhhhhhh : 電文ヘッダ (半角カナ) =カザンゾ ヲ助 1
- 2) nnnnnnnnnn : 発信官署名 (半角カナ)
- 3) (STX) : 本文開始符号(Start of Text)
- 4) aa : 火山情報種別番号
40=緊急火山情報, 41=臨時火山情報, 42=火山観測情報,
43=定期火山情報, 44=統一見解等
- 5) bb : 電文発信官署コード
01=札幌, 02=仙台, 03=本庁, 04=大阪, 05=福岡, 06=沖縄
07=鹿児島, 09=中枢以外の気象官署 (地台など)
- 6) cc : 電文種別
00=通常, 01=訓練, 10=通常を取り消し,
11=訓練の取り消し, 20=通常形式の電文による配信試験,
30=基本コード部のみの形式による配信試験
- 7) ylylm1md1d1h1h1m1m1s1s1: 電文発信時刻
- 8) Cnf : 電文通数
C : 電文通数を示す識別符号
n : この情報で電文がこれを含めあと何通あるかを示す。
f : この電文でコード部が終わりかあるいはさらに続くかを示す。
1=終わり, 0=続く
2 通目の電文以降の電文のコード部は
(aa bb nn ylylm1md1d1h1h1m1m1s1s1 Cnf 9999) とする。
- 9) y2y2m2m2d2d2h2h2m2m2 : 情報発表時刻
- 10) Nnnnn : 情報番号
N : 情報番号を示す識別符号
nnnn : 情報番号 通番: n=1~9999; ////=省略
- 11) Fx : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等
F : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等を表す識別符号
x : 噴火の発現日時と火山情報の発表日時との時間的な関係等を表す。 / =設定なし, 1=噴火前, 2=噴火後

3=現地確認・現地報告を受けての発表, 9=不明

- 12) Sd1d1d1d2 : 情報発表官署
S : 情報発表官署を示す識別符号
d1d1d1 : 情報発表官署コード
412=札幌管区气象台, 590=仙台管区气象台,
662=気象庁地震火山部, 772=大阪管区气象台,
807=福岡管区气象台, 827=鹿児島地方气象台,
936=沖縄气象台
d2 : 連名による情報発表の有無
0=連名なし(通常), 1=連名発表(主たる発表官署は d1d1d1)
- 13) Meee : 火山名
M : 火山名を示す識別符号
eee : 火山名コード
- 14) *Lp1p2p3p4* : 火山活動度レベル
L : 火山活動度レベルを示す識別記号
p1 : 火山活動度レベル : *p1=0~5*
火山活動度レベルの運用開始前の火山では *p1=/*
p2p3p4 : 未使用 *p2p3p4=///*
- 15) 9999 : コード行終了符号
16) = : 本文終了記号
17) (ETX) : 本文終了符号(End of Text)

③震源速報に「海面変動あり」の情報を付加することについて

1. 震源速報について

この度、震源速報に「津波の心配なし」に加え、津波注意報の基準には至らないが若干の海面変動（20cm以下）があると判断された場合に「この地震により、若干の海面変動があるかもしれませんが、被害の心配はありません」も付加することにしました。

電文フォーマットは変更ありませんが、付加文コード部分から「海面変動あり」の情報を読みとってもらう必要があります。この付加文コードのフォーマットは「震源・震度に関する情報」の付加文コードのフォーマットと同一です。

[過去の経緯]

震源速報は、地震発生後約2分で震度速報が発表された震度3以上の地震について、震源が確定し津波の心配がないと判断された場合に、その地震の震源要素と「津波の心配なし」を情報内容として「震源・震度に関する情報」の前に発表しています。オンラインユーザの方に「津波の心配なし」を迅速に伝える目的で、平成14年3月から開始しました。

震源速報の電文フォーマットは「震源・震度に関する情報」の震度部分を除いた形態で、「津波の心配なし」も「震源・震度に関する情報」の定型付加文と同様なコード体系となっています。

①「津波の心配なし」の付加文が入った例文（現在）

シゲソクナク 1 キヨク

89 03 00 030726071720 C11 0307260713 220 /// // /// 0386 01412 010
62 EI // A170000 9999

地震情報（震源に関する情報）

平成15年 7月26日07時17分 気象庁地震火山部発表

きょう26日07時13分ころ地震がありました。

震源地は、宮城県北部（北緯38.6度、東経141.2度）で、震源の深さは約10km、地震の規模（マグニチュード）は6.2と推定されます。

この地震による津波の心配はありません。

②「この地震により、若干の海面変動があるかもしれませんが、被害の心配はありません」の付加文が入った場合（今後）

シゲソクナク 1 キヨク

89 03 00 030526182920 C11 0305261824 287 /// // /// 0388 01417 060
70 EI // A100010 9999

地震情報（震源に関する情報）

平成15年 5月26日18時29分 気象庁地震火山部発表

きょう26日18時24分ころ地震がありました。

震源地は、宮城県沖（北緯38.8度、東経141.7度）で、震源の深さは約30km、地震の規模（マグニチュード）は7.0と推定されます。

この地震により、若干の海面変動があるかもしれませんが、被害の心配はありません。

2. 震源速報のコード部フォーマットについて

コード体型には変更はありません。

必要なことは、付加文を示す $Afn_1n_2n_3n_4n_5$ 部分で「津波の心配なし」以外に「この地震により、若干の海面変動があるかもしれませんが、被害の心配はありません」の有無を読みとることだけです。ただし、この付加文フォーマットも「震源・震度に関する情報」と同一ですから、そのロジックで解読するようになっていけば特に変更の必要はなく解読できるはずです。

コードのフォーマット（従来提示と変更なし、ただし海面変動有りの部分は赤字で示す）

「aa bb nn y_iy_jm_im_jd_id_jh_ih_jm_im_js_is_j Cnf yymmddhhmm kkk xxx yy zzz nddd ndddd hhh mm EI dd $Afn_1n_2n_3n_4n_5$ 9999」

aa : 電文種別コード 89=震源に関する情報

bb nn y_iy_jm_im_jd_id_jh_ih_jm_im_js_is_j Cnf : コードの共通項目参照。

yymmddhhmm : 発現時（年月日時分）。

kkk : 震央地名コード番号 この番号表は別紙参照。

xxx yy zzz : 「○○の△△◎◎◎km 付近」の表現 xxx は地点のコード番号（別紙参照）

yy は 16 方位, zzz は距離（単位 10 km, 一の位は四捨五入）発表しない時は「/// // ///」。

yy の 16 方位は次のとおり。

01:北北東 02:北東 03:東北東 04:東 05:東南東 06:南

東

07:南南東 08:南 09:南南西 10:南西 11:西南西 12:西

13:西北西 14:北西 15:北北西 16:北

ndddd ndddd : 震源の緯度, 経度（単位 度 1/10 まで表示）, 北緯, 東経の場合は n=0 西経, 南緯の場合は n=1。

hhh : 震源の深さ（単位 km）. 不明の場合///, 600km 以上の場合 999

hhh が 000 の場合には、「震源の深さは約 0 km」とは表記せず、「震源の深さは、ごく浅い」と表記する。

mm : マグニチュード。不明の場合//

EI : 予備データの識別符号

dd : 予備データ（//或いは数字；使用しないで下さい）

$Afn_1n_2n_3n_4n_5$: 付加文の有無を表すコード

A : A は以下に付加文を報ずることを示す識別符号。

f : 何らかの付加文の有無を示す。0=付加文全くなし, 1=何らかの付加文あり

n₁ : 津波の心配なしの付加文の有無を示す。

0=「この地震による津波の心配はありません。」の付加文なし。

7=「この地震による津波の心配はありません。」有り。

n₂ : 震度修正に関する付加文の有無を示す。

1=震度を訂正する。（震度の追加を含めてこの表現で表す）

0=なし。

n₃ : 「震源要素を訂正する。」の付加文の有無を示す。0=なし, 1=あり

n₄ : 「この地震により、若干の海面変動があるかもしれませんが、被害の心配はありません。」

の付加文の有無を示す。0=なし, 1=あり。

n₅ : 津波予報が発表中であるか否かを示す（地域の特定はしない）。

0=津波予報を発表していない。

1=津波予報が発表中である。

（注1）付加文が全くない場合も上記電文には必ず「 $Afn_1n_2n_3n_4n_5$ 」が付く。

④電文通数を示すコード部の機能拡張について

前回（平成 15 年 6 月 20 日）の気象振興協議会で提示した内容です。

現在、気象庁の震度情報における発表対象震度観測点は約 3400 地点になりました。地方公共団体の震度計の活用はほぼ終了しましたが、今後、防災科学技術研究所の K-NET（強震観測網）の震度データを活用していく予定です。

地震火山関係の電文にはコードの基本部に「Cnf」という電文通数を示す部分があり、n が電文の通数を示しますが現在の仕様では 9 通までとなっています。今後、震度観測点の増加に伴い、大規模な地震が発生し広範囲で有感となった場合には、地点の震度を報ずる電文（チイテンソド 3、ゼンテンソド 3 等）は 10 通を超える可能性も出てきました。

そこで、「Cnf」の n の値を 0~9 の次に A~Z のアルファベットを割り当て 10 通以上にも対処する予定です。

電文通数を示すコード部のフォーマット

以下に示す電文フォーマットは以前から提示しているものである。

今回修正する部分は赤字で示す。

コードの基本的な構成は「aa bb nn yiyimimididihihimimisisi Cnf …… 9999」で、

「aa bb nn yiyimimididihihimimisisi Cnf」はコードの共通項目（基本部）である。

9999 はコード部の終了を示す。

電文通数を示す部分はこの共通項目（基本部）にある。

aa : 電文種別コード

bb : 発信官署コード

nn : 電文の種類

yiyimimididihihimimisisi : 発表時刻 {年月日時分 (秒)}

Cnf : 電文通数

1 通の電文では電文長が最大 3800 バイトまでの制限があるため複数に分かれる場合の判断に使用。

C : 電文通数を示す識別符号。

n : この情報で電文がこれを含めあと何通あるかを示す。

0~9 の数字の後に A~Z のアルファベットを使用する。

従って順序は小さい方から「1 2 3 4 5 6 7 8 9 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U

V W X Y Z」とする。

f : この電文でコード部が終わりかあるいはさらに続くかを示す。

1 の時終わり、0 の時続くとする。

例えば 1 通のみで終わる時には C11 となる。

本文で 2 通に分割される時には 1 通目が C21, 2 通目が C11 となる。

コード部で 2 通に分割される場合は 1 通目が C20, 2 通目が C11 となる。

2 電文目以降の電文はコード行の共通部 (aa bb nn yiyimimididihihimimisisi

Cnf) を必ず付ける。この共通部は Cnf を除いて 1 電文目と共通である。

<電文例>

電文分割の具体例（コード電文が10分割される場合）

1通目

子機テンソット3 キヨウ

91 03 01 000902093750 CA0 0009020930 442 305 15 040 0349 01381 030
80 EI // BI S7 442 S6+ 441 443 S6- 422 440 361 410 411 431 360 S5+
356 451 461 331 342 351 352 355 357 450 332 462 S5- 460 301 321 330
340 341 350 421 430 432 S4 310 311 320 358 400 401 420 500 501 540
..... (省略)

33031 33032 33033 33034 33035 33036 33037 33101 33106 33109 33110
33111 33112 33113 33114 33115 33116 33117 33118 33119 33120 33121
9999=

2通目

子機テンソット3 キヨウ

91 03 01 000902093750 C90 33122 33123 33124 33125 33126 33127 33128
33129 33130 33131 33132 33133 33134 33135 33136 33137 33139 33140
33141 33142 33143 33144 33201 33202 33203 33204 33205 45105 45117
45118 45120 45121 45127 45129 45132 45133 45137 45139 45143 45144
..... (省略)

35800 40000 40001 40002 40003 40004 40005 40006 40007 40008 40009
40100 40103 42000 42003 42018 42101 42137 42143 43014 43017 43018
9999=

..... (省略)

10通目

子機テンソット3 キヨウ

91 03 01 000902093750 C11 5900030 5900130 5900230 5900330 5900430
5900630 5900700 5900800 5900930 5901030 5901130 5901230 5901330
5901530 5901730 5901930 5902030 5902130 5902200 5902230 5902330
..... (省略)

7500600 7500800 7510000 7510100 7510200 7520000 7520900 7521100
A100001 9999=

<電文例>

電文分割の具体例（コード電文が10分割される場合）

1 通目

チイチンソツト³ キヨウ

91 03 01 000902093750 CA0 0009020930 442 305 15 040 0349 01381 030
80 EI // BI S7 442 S6+ 441 443 S6- 422 440 361 410 411 431 360 S5+
356 451 461 331 342 351 352 355 357 450 332 462 S5- 460 301 321 330
340 341 350 421 430 432 S4 310 311 320 358 400 401 420 500 501 540
.....（省略）.....

33031 33032 33033 33034 33035 33036 33037 33101 33106 33109 33110
33111 33112 33113 33114 33115 33116 33117 33118 33119 33120 33121
9999=

2 通目

チイチンソツト³ キヨウ

91 03 01 000902093750 C90 33122 33123 33124 33125 33126 33127 33128
33129 33130 33131 33132 33133 33134 33135 33136 33137 33139 33140
33141 33142 33143 33144 33201 33202 33203 33204 33205 45105 45117
45118 45120 45121 45127 45129 45132 45133 45137 45139 45143 45144
.....（省略）.....

35800 40000 40001 40002 40003 40004 40005 40006 40007 40008 40009
40100 40103 42000 42003 42018 42101 42137 42143 43014 43017 43018
9999=

.....（省略）.....

10 通目

チイチンソツト³ キヨウ

91 03 01 000902093750 C11 5900030 5900130 5900230 5900330 5900430
5900630 5900700 5900800 5900930 5901030 5901130 5901230 5901330
5901530 5901730 5901930 5902030 5902130 5902200 5902230 5902330
.....（省略）.....

7500600 7500800 7510000 7510100 7510200 7520000 7520900 7521100
A100001 9999=

⑤震度情報発表の地域ブロックの分割及び震央地名の変更について

震度情報については地震発生時の防災初動対応に資するため、平成8年10月から、当庁において全国に設置した震度観測点の震度データをもとに地震発生後数分で「震度速報」「震源・震度に関する情報」等を発表する体制を整え運用してきました。加えて、地方公共団体の整備する震度観測点についても順次活用し、震度情報の充実を図っているところです。

当庁ではこの度、現在の気象庁震度観測網を基礎とした震度速報等の迅速な発表を維持しつつ、地域の実情を踏まえて、下記のとおり震度情報で発表する地域について変更を行います。

また、防災対応上の無用な混乱を避けるため、併せて必要となる震央地名の変更も行い、震度情報の充実を図ります。

実施時期は平成15年12月1日を予定しています。

記

1. 震度の地域の変更

(1) 変更内容

a. 鳥取県

「鳥取県中・西部」地域について、鳥取県中部及び西部と称される実情に合わせ、行政区分をもとに地域を分け、名称を変更します（別紙図参考）。

①地域の内訳

鳥取県中部	倉吉市 東伯郡羽合町・泊村・東郷町・三朝町・関金町・北条町・大栄町・東伯町・赤碕町
鳥取県西部	米子市 境港市 西伯郡西伯町・会見町・岸本町・日吉津村・淀江町・大山町・名和町・中山町、日野郡日南町・日野町・江府町・溝口町

②地域コードの変更内容

(現行)

地域コード	地域名称
5 6 1	鳥取県中・西部

(変更後)

地域コード	地域名称
5 6 2 (新規)	鳥取県中部 (新規)
5 6 3 (新規)	鳥取県西部 (新規)

b. 鹿児島県

「鹿児島県奄美北部」地域について、奄美地方と十島村地域では同一地域とは認識されていない実情を反映し、行政区分をもとに地域を分け、名称を変更します（別紙図参考）。

①地域の内訳

鹿児島県十島村	鹿児島郡十島村
鹿児島県奄美北部	名瀬市 大島郡大和村・宇検村・瀬戸内町・住用村・龍郷町・笠利町・喜界町

②地域コードの変更内容

(現行)		(変更後)	
地域コード	地域名称	地域コード	地域名称
778	鹿児島県奄美北部	778	鹿児島県奄美北部
		774 (新規)	鹿児島県十島村 (新規)

c. 沖縄県

「沖縄県石垣島」地域について、石垣島と西表島地域において行政区分が異なること及び地震活動の様相が異なることから地域を分け、名称を変更します（別紙図参考）。

①地域の内訳

沖縄県石垣島	石垣市
沖縄県西表島	八重山郡竹富町

②地域コードの変更内容

(現行)		(変更後)	
地域コード	地域名称	地域コード	地域名称
805	沖縄県石垣島	805	沖縄県石垣島
		807 (新規)	沖縄県西表島 (新規)

(2) 変更によって必要となる震度観測点のコードに関する事項

変更となる地域に属する震度観測点について、市区町村コード（5桁）及び震度観測点コード（7桁）が変更となります。

(例) 震度観測点「米子市博労町」の場合

	現在	変更後
市区町村コード	56100	56300
震度観測点コード	5610000	5630000

2. 震度の地域変更に対応した震央地名の変更

(1) 鳥取県

震度の地域変更に対応して、震央地名及び範囲も変更することにより、分かりやすい震度情報とし、無用の混乱が生じないように配慮します。

(現行)

震央地名 コード	震央地名名称
5 6 1	鳥取県中・西部

(変更後)

震央地名 コード	震央地名名称
<u>5 6 2</u> (新規)	鳥取県中部 (新規)
<u>5 6 3</u> (新規)	鳥取県西部 (新規)

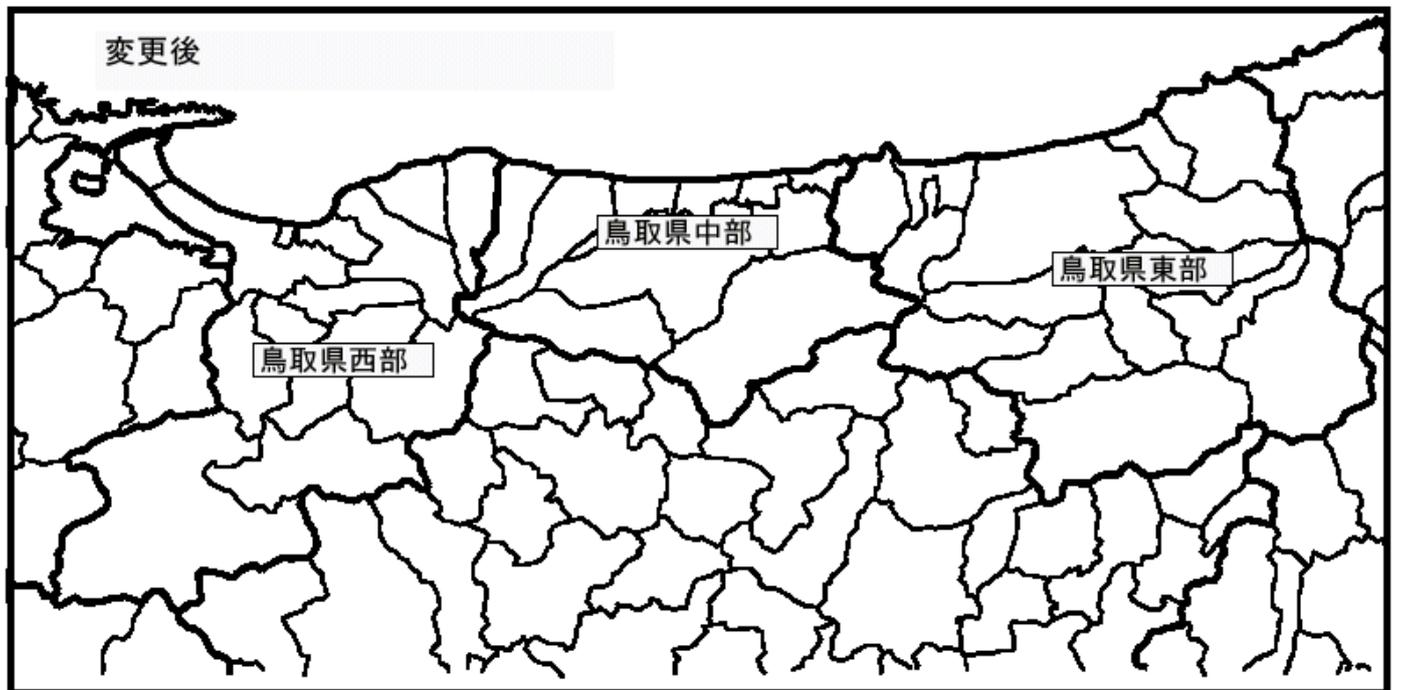
(2) 鹿児島県及び沖縄県

震度の地域変更が行われる周辺の範囲はほとんどが海域で、震央地名は主に海域の名称を付けています。このため、震度の地域変更に対応した震央の地域変更を行うことは難しく、現状のままでも適切であると判断し、変更は行いません。

(参考)

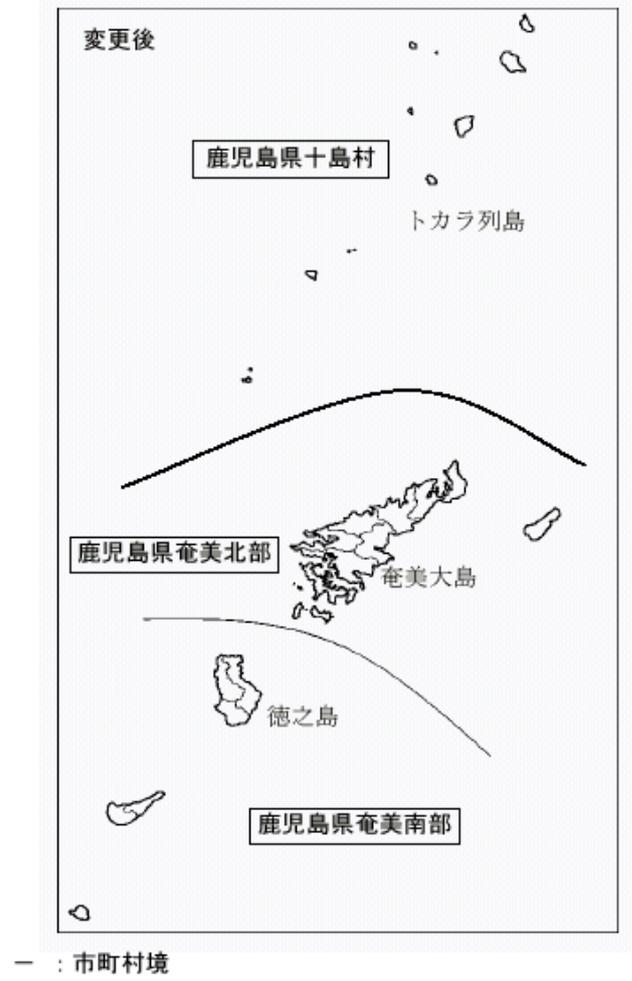
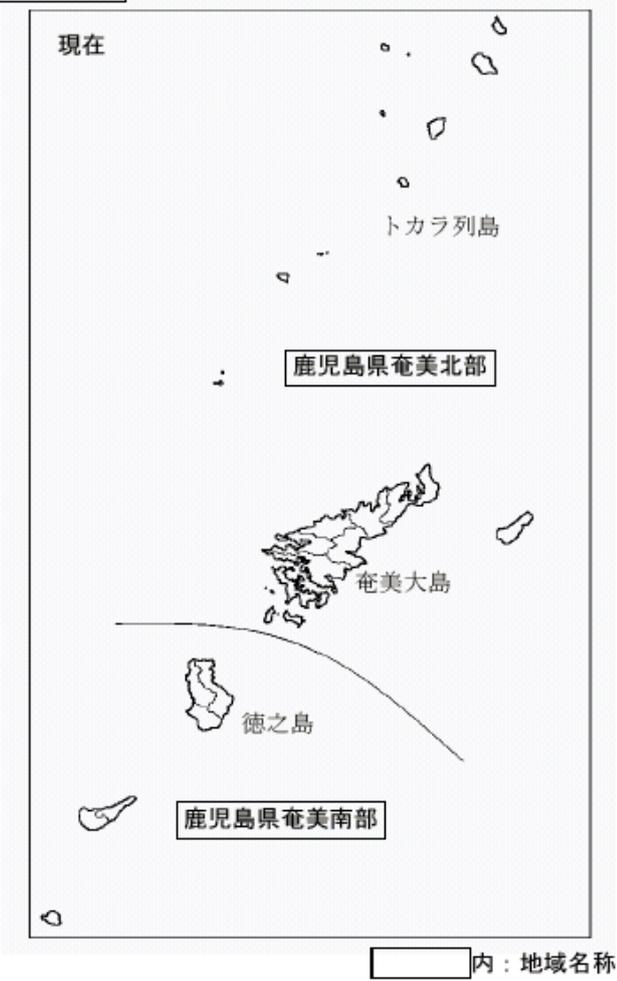
- ・ 鹿児島県奄美北部及び十島村周辺海域の震央地名
「種子島近海」「奄美大島近海」
- ・ 沖縄県石垣島及び西表島周辺海域の震央地名
「石垣島近海」「西表島付近」

鳥取県

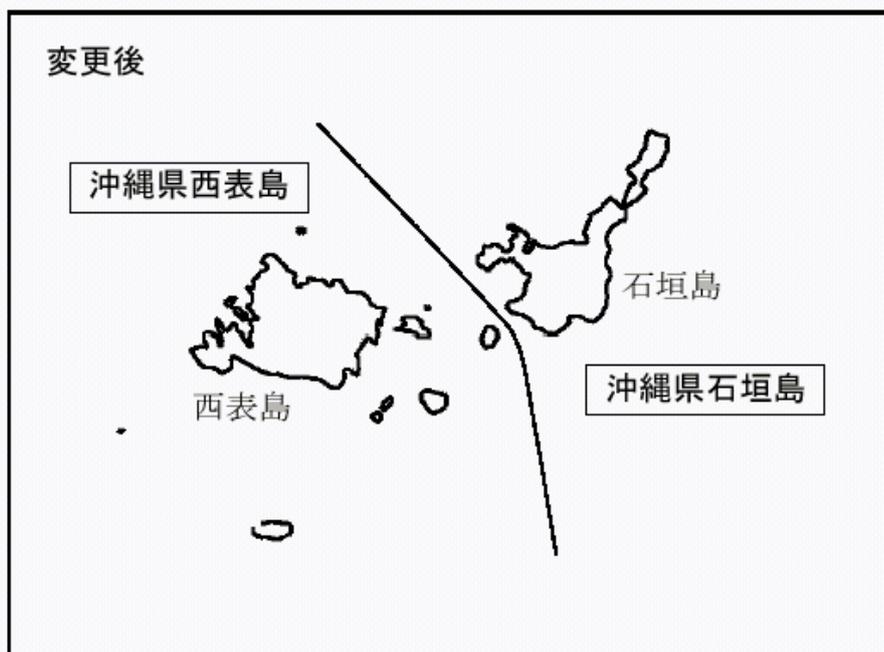
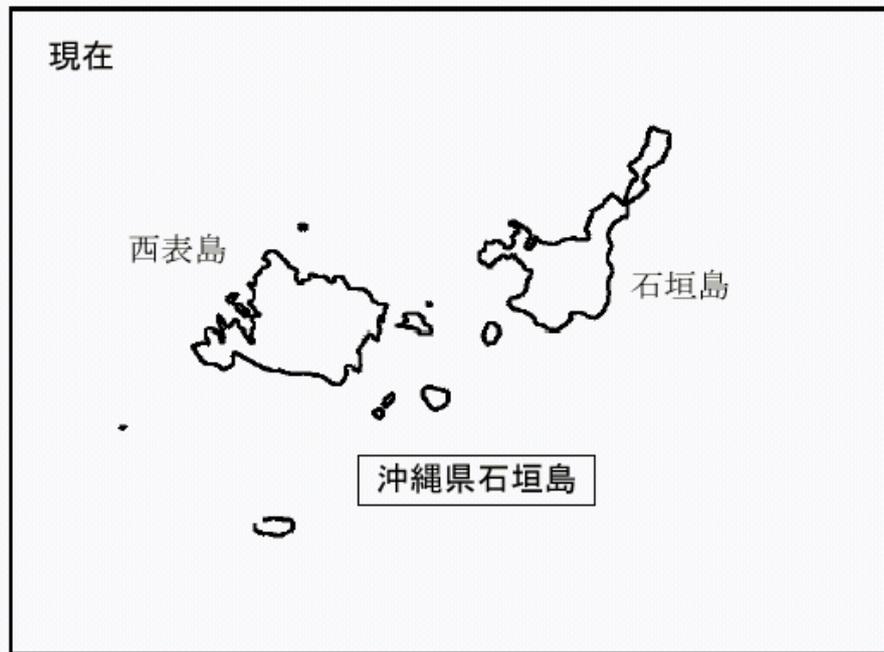


内：地域名称

—：市町村境



沖縄県



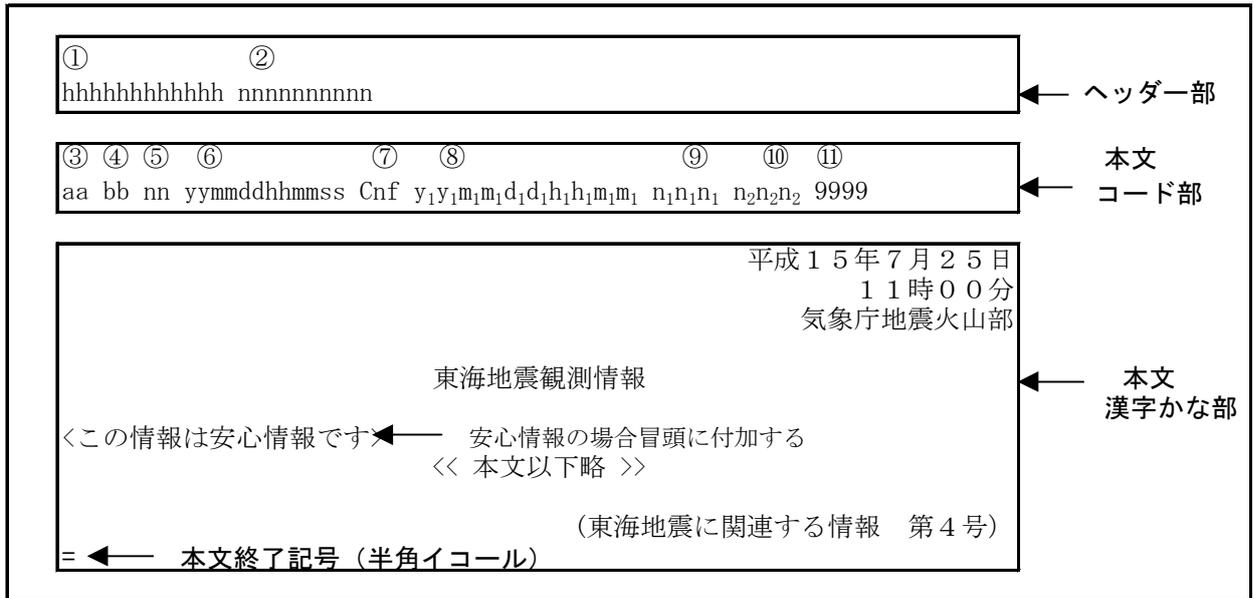
内：地域名称

—：市町村境

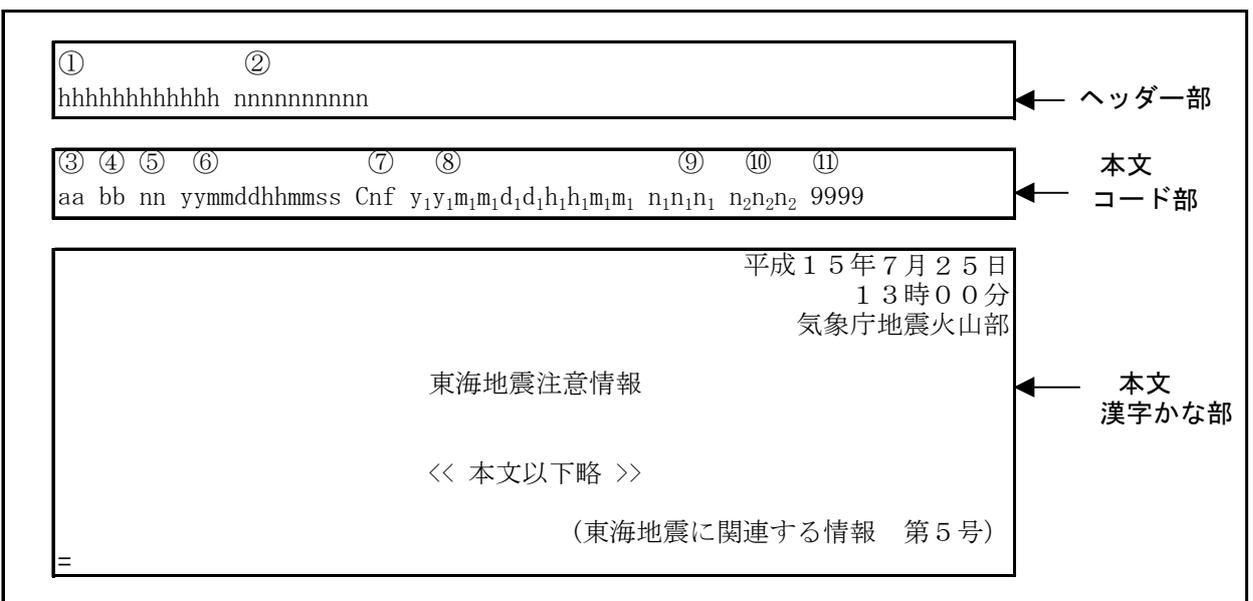
⑥「東海地震に関連する情報」のヘッダー部及びコード部等の説明

1. 電文の構成（下図の丸数字は2.の丸数字に対応）

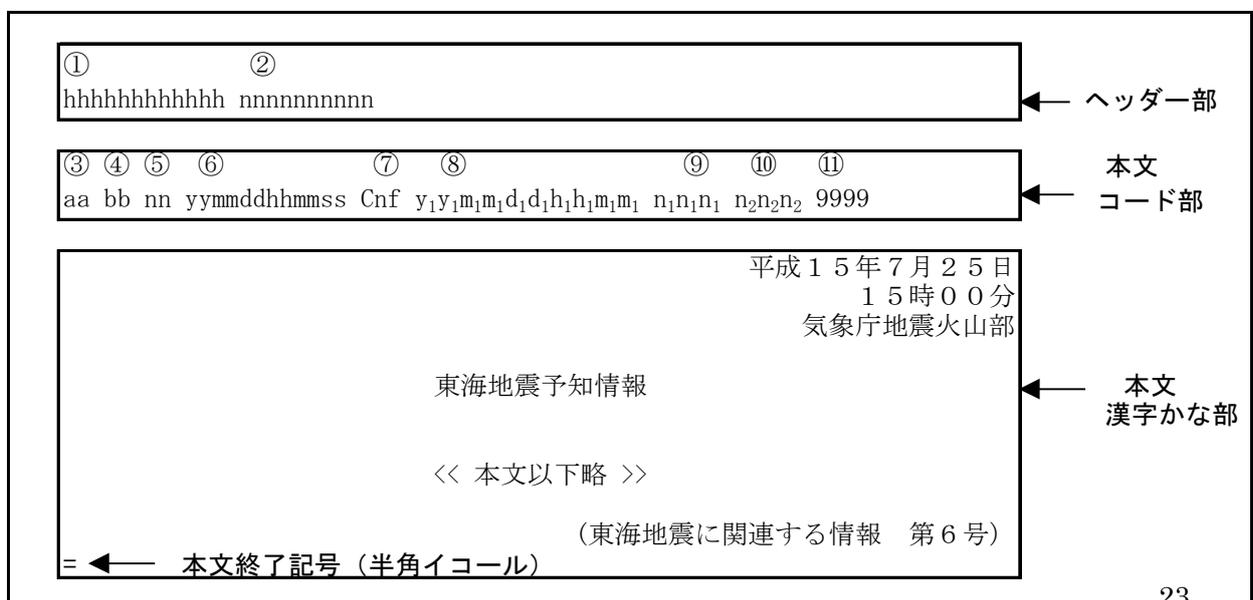
(1) 東海地震観測情報



(2) 東海地震注意情報



(3) 東海地震予知情報



2. ヘッダー部、本文：コード部および本文：漢字かな部の詳細
(今回の変更点を斜体・太字・下線で示す)

1) ヘッダー部

- ① hhhhhhhhhh : 電文ヘッダー (半角カナ)
トカイイチ 1=東海地震予知情報
トカイイチ 1=東海地震注意情報
トカイカンク 1=東海地震観測情報

- ② nnnnnnnnnn : 発信官署名 (半角カナ)
(本庁の場合、キヨ)

2) 本文：コード部

- ③ aa : 電文種別コード
17=トカイイチ 1 東海地震予知情報
18=トカイイチ 1 東海地震注意情報
19=トカイカンク 1 東海地震観測情報
- ④ bb : 発信官署コード
01=札幌、02=仙台、03=本庁、04=大阪、05=福岡、06=沖縄
- ⑤ nn : 電文の種類
00=通常、01=訓練、10=通常の取り消し、11=訓練の取り消し
20=通常形式の電文による配信試験
30=基本コード部のみの形式による配信試験
- ⑥ yymmddhhmmss : 発表時刻 (ss は最新電文識別のみに用いる (発表時刻としては用いない))
- ⑦ Cnf : 電文通数(1 通の電文では電文長が最大 3,800 バイトまでの制限があるため、複数に分かれる場合の判断に使用する)
C=電文通数を示す識別符号
n=この情報で電文がこれを含めてあと何通あるかを示す
f=この電文でコード部が終わりかあるいはさらに続くかを示す
1 のときは終わり、0 の時はつづくとする
- ⑧ y₁y₁m₁m₁d₁d₁h₁h₁m₁m₁ : 情報発表時刻
- ⑨ n₁n₁n₁ : 情報発表番号 4号の場合は 004 となる
- ⑩ n₂n₂n₂ : 情報の内容
000 : デフォルト
001 : 各電文種別コード内での第1報 (900 の場合を除く)
900 : 解除 (電文種別コードが19 の場合は「安心情報」)
- ⑪ 9999 : コード部の終了を示す

3) 本文：漢字かな部

- ・情報文の構成は、「見出し」+「本文」とする (3. 発信電文例参照)。
・「見出し」は、最大で300字程度。

3. 発信電文例（今回の変更点を斜体・太字・下線で示す）

（1）東海地震観測情報（安心情報）

トウカイカンソク1 キンヨウ

19 03 00 030507230057 C11 0305072300 001 900 9999

平成15年5月7日

23時00分

気象庁地震火山部

東海地震観測情報

<この情報は安心情報です>

**** 見出し ****

本日（7日）20時48分に静岡県中部を震源としたM4.7（暫定値）の地震が発生し、最大震度5弱を観測しましたが、この地震は東海地震に直接つながるものではありません。

**** 本文 ****

5月7日20時48分に静岡県中部（静岡・山梨県境付近）の深さ14kmでM4.7（暫定値）の地震が発生しました。この地震により、清水市で震度5弱、静岡市で震度4を観測したほか、静岡県中部を中心に震度3が観測されました。震源の深さから、この地震はプレート境界より上部の地殻内で発生したと考えられます。発震機構は、北西-南東方向に圧力軸をもつ横ずれ型で、この付近の地震ではよくみられるタイプです。この地震のあと、最大M3.8の地震（7日21時35分、最大震度2）を含む余震活動がありましたが、次第にその活動は減衰しています。

周辺の体積歪（たいせきひずみ）計などには、この地震に伴う異常な地殻変動は観測されていません。

今回の地震活動は、この付近では過去に数年に1回程度みられる活動であり、東海地震に直接つながるものではないと判断しました。

なお、この情報に引き続く東海地震に関連する情報の発表はありません。

(東海地震に関連する情報第1号)

=

(2) 東海地震観測情報 (1回目の観測情報)

トウカイソク1 キョウ

19 03 00 030731130000 C11 0307311300 001 001 9999

平成15年7月31日

13時00分

気象庁地震火山部

東海地震観測情報

** 見出し **

浜北（はまきた）の地殻変動データが通常と異なる変化を示しています。気象庁では、この変化と東海地震との関連性につき調査中です。

** 本文 **

気象庁が東海地域に設置した地殻岩石歪計のうち、浜北の観測データが本日（31日）11時頃から通常と異なる変化を示し始めました。

現在のところ、他の観測点では通常の変動レベルを越えるような変化は観測されていません。また、東海地域の地震活動にも特段の変化は見られません。

気象庁では、他の観測点のデータも含め、今後の観測データの推移について注意深く監視を続けることとしています。

次の情報発表は、本日16時00分を予定しています。

(東海地震に関連する情報第1号)

=

(3) 東海地震注意情報 (1 回目の注意情報)

トウカイチ1 キヨウ

18 03 00 030731190057 C11 0307311900 003 001 9999

平成 15 年 7 月 31 日

19 時 00 分

気象庁地震火山部

東海地震注意情報

** 見出し **

浜北 (はまきた) 及び天竜 (てんりゅう) 観測点の地殻変動データに変化が現れています。この変化は、東海地震の前兆現象としてのプレスリップの発生に伴うものである可能性が高くなっています。

地震防災対策強化地域及び隣接する周辺地域においては、東海地震の発生について注意が必要です。

** 本文 **

気象庁が東海地域に設置した地殻岩石歪計のうち、浜北の観測データが本日 (31 日) 11 時頃から通常と異なる変化を示しており、現在も継続中です。その後 18 時頃から、天竜の観測データにも、通常と異なる変化が認められています。

浜北、天竜の 2 観測点のデータの変化傾向が類似しており、変化量も浜名湖北東部直下にプレスリップ (プレート境界の一部がゆっくりとずれ動く現象) が発生しているとしても説明可能です。気象庁は、地震防災対策強化地域判定会委員の意見等も踏まえ、これらの変化が、東海地震の前兆現象として考えられているプレスリップの発生に伴うものである可能性が高くなったと判断しています。

地震防災対策強化地域及び隣接する周辺地域においては、東海地震の発生について注意が必要です。

気象庁では、他の観測点のデータも含め、今後の観測データの推移について厳重に監視を続けます。

状況に特段の変化がない限り、次の発表は本日 21 時を予定しています。

(東海地震に関連する情報第 3 号)

=

(4) 東海地震予知情報 (1 回目の予知情報: 東海地震のおそれありの総理大臣報告)

トカイチ1 キヨウ

17 03 00 030801090057 C11 0308010900 008 001 9999

平成15年8月1日

09時00分

気象庁地震火山部

東海地震予知情報

** 見出し **

浜北 (はまきた)、天竜 (てんりゅう)、藤枝 (ふじえだ) の地殻変動データ等が大きく変化しており、このままの変化が続けば、現在から2、3日以内に駿河湾及びその南方沖を震源域とする大規模な地震 (東海地震) が発生するおそれがあると予想されます。

地震防災対策強化地域及び隣接する周辺地域では、東海地震の発生につき嚴重な警戒が必要です。

** 本文 **

気象庁が東海地域に設置した地殻岩石歪 (ひずみ) 計のうち、浜北、天竜、藤枝の観測データ等が大きく変化しています。このほか、周辺の地殻岩石歪計、傾斜計、水位計にも若干の変化が現れています。

これらの異常な地殻変動は、浜名湖北東部直下の深さ約30kmのプレート境界の一部がゆっくりとずれ動き始めたことに伴うものと推定されます。

このままの変化が続けば、現在から2、3日以内に駿河湾及びその南方沖を震源域とする大規模な地震 (東海地震) が発生するおそれがあると予想されます。

予想された地震が発生すると、地震防災対策強化地域のうち、静岡県全域及び神奈川県、山梨県、長野県、愛知県、岐阜県の一部の地域では震度6弱以上、それに隣接する周辺の地域では震度5強程度になると予想されます。

また、太平洋沿岸の広い地域に津波の来襲が予想され、とくに、伊豆半島南部、駿河湾から遠州灘、熊野灘沿岸にかけてと伊豆諸島の一部、及び相模湾の一部、房総半島南部の一部では大津波となるおそれがあります。

地震防災対策強化地域及び隣接する周辺地域では、東海地震の発生につき嚴重な警戒が必要です。

(東海地震に関連する情報第8号)

=